

経営のヒント226 名刺を変えると何かが変わるか

「くまモンの秘密」という本に、こんなヒントがあります。

名前を覚えてもらえないので、名刺をつくりました。

くまモンが大阪で活動を展開するにあたって考えた秘密兵器のひとつが名刺でした。

ゆるキャラに名刺を持たせてどうするのか？と言われそうですが、名もない地方のゆるキャラが大都市で一旗上げようというのですから、まず名前を覚えてもらわなければならないと考えるのは自然な流れでしょう。

というよりも、小山薫堂さんが、実に上手に名刺を活用しているのを、チームくまモンはその著書「考えないヒント——アイデアはこうして生まれる」を通じて知っていましたから、これを真似しない手はない、と思っていたのです。

小山薫堂さんは、かつて日光金谷ホテルの再生を依頼され、名刺を使った意識改革をやりました。

名刺を作りかえることによって、僕は3つのことを意図していました。

まず新しい名刺によって、ホテルへの愛情を確認することが1つです。そのために、今まで名刺を持ったことのない清掃係の人や売店の人まで、全員に名刺を持ってもらいました。

名刺を持つだけで、「自分もスタッフの一員なんだな」という実感が湧いてきます。

そして、もう1つ狙っていたのが、新しい名刺をきっかけにして、お客さんと積極的にコミュニケーションをとれるようにすることです。

さらにそれと関連して、顧客を一人でも増やすこと。とりわけ、若いお客さんを取り込むことを考えました。

そこでまず、新しい名刺を作るにあたって「ホテルの中であなたの一番好きな部分・場所はどこですか」ということを社員全員に考えてもらいました。「その中から絵になるところを写真にバシバシ撮って」名刺にし、次に「ホテルの中にポスターを貼り」「スタッフは一人ひとり違う写真のついた名刺を持っています。

全部で30種類。その30種類を集めると、金谷ホテルの小さな写真集ができあがりますから、どうぞ、スタッフに声をかけて名刺をどんどんもらって下さい」と宿泊にきたお客様に呼びかけることを始めます。

名刺がコミュニケーションを盛んにする大事なツールであると位置づけ、さらに一工夫することで、ホテルの従業員のモチベーションを上げてしまうという小山薫堂マジックです。

これをヒントに、くまモンにも普通の名刺ではなく、話題になりそうな面白い名刺を持たせることにしました。

名刺の裏にくまモンのイラストとコピーを入れたのです。

くまモンは黒とほっぺたの赤の二色で構成されていて、あまり色気がないので、背景に黄、緑、紫、エンジ、青、ピンク、草、紺の8種類の色を用意しました。

さらにそれぞれの色に4種類、計32種類のコピーを、一緒に仕事をする事となった広告代理店のコピーライターさんに考えていただきました。

32種類もの名刺があれば、集めてもらう楽しみが出来るかな？そのため頻繁にくまモンに会いに来てほしいな。トレーディングカードみたいに、フアンの間で交換されるようになれば面白いな、と勝手に想像を膨らませていました。

この名刺効果は絶大でした。まず、熊本県庁でお披露目をした「くまもとサプライズ特命全権大使」委嘱状交付式で、さっそく記者さんたちの間で話題になりました。くまモンも直接名刺交換しながら、

曰く、名前を覚えてもらえないので名刺を作りました。

……まんま、名刺に書いてあるコピーのパクリやん！

参考著者「くまモンの秘密」熊本県庁チームくまモン 幻冬舎新書

<経営のヒント>

たかが名刺、されど名刺。あなたの名刺はなにか工夫していますか？名刺の活用は、意識変革です！